

「信仰と希望と愛にあふれた教会」  
(コリント人への手紙第一 13章13節)

はじめに

2021年が明けました。この1年を始めるにあたり、まず主のみことばみ耳を傾けましょう。

さがみのキリスト教会は、教会の目標として「信仰と希望と愛にあふれた教会」になることを目指しています。そこで、今朝は、このことを共に学びましょう。

1. 信仰にあふれた教会です。

信仰にあふれた教会とは、どういう教会でしょうか。

① それは、皆がイエス・キリストをしっかりと信じている教会です。どんなにたくさん人々が集まっても、イエス・キリストを信じていなければ、真の教会ではありません。ですから、さがみのキリスト教会は、まず何よりもイエス・キリストをしっかりと信じる信仰にあふれた教会であってほしいです。

② 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。

ローマ人への手紙で、使徒パウロは、「義人は信仰によって生きる」というハバクク書2章4節を引用して、正しい人とは、罪を犯さない人ではなく、信仰によって生きていく人だと教えました。ヘブル人への手紙の記者は、「信仰によらなければ、神に喜ばれることは出来ませんと、信仰の大切さを訴え、アブラハムを始め、信仰に生きた人々の例を挙げています。彼は信仰によって、人生を信仰によって切り開いていったのです。

さがみのキリスト教会も、信仰によって生きる信者のあふれた教会になることを願っています。

2. 希望にあふれた教会です。

希望にあふれた教会とは、どんな教会でしょうか。何に希望を持つのでしょうか。

それは、キリストが再び来られるのを待ち望む（Iテモ1:10）教会です。キリストが再臨するのを待つといっても、私たちは生きている間にそれが実現しないかもしれません。しかし、私たちは、いつの日かキリストにお会いすることを待ち望むのです。つまり、この世のことに執着せず、神様の報いを待ち望むのです。一生懸命に何かをしても、報いられないかもしれません。しかし、神様は知っていてくださるのですから、それに期待するのです。

さがみのキリスト教会も、人々からの報いに期待するのではなく、神様への希望にあふれた教会になりましょう。イザヤは、「主を待ち望む者は、新しい力を得る」（イザ40:31）と言いました。

## 内村鑑三の娘ルツ子の死

日本が生んだ偉大なクリスチャンの一人に内村鑑三がいます。彼の娘ルツ子は、16歳の若さで病死しました。病気を得てからルツ子の信仰は成長し、「感謝、感謝」を繰り返すようになりました。内村はルツ子の臨終の3時間前に洗礼を施し、親子3人で聖餐式を行いました。葬式の時、内村はこう語りました、「今日、この式はルツ子の結婚式であります。私ども彼女の両親は、今日私どもの愛する娘を天国に嫁入りさせるのであります。今日は、この黙示録に示してあるところの子羊の婚姻のむしろであります」。埋葬の時、一握りの土をつかんだ手を高く上げ、「ルツ子さん、万歳！」と声高く叫びました。

ルツ子の死は、内村にとって耐えがたい悲しみでした。しかし、これによって彼の信仰は一層飛躍しました。ことに、天国、来世、復活の信仰に燃えました。ルツ子が天国に召された次の月の「聖書之研究」誌に「我らは四人である」と題して次の詩を掲げました。

我らは四人であった  
而して今なお四人である  
戸籍帳簿に一人の名は消え  
四角の食台の一方は空しく  
四部合唱の一部は欠けて  
讚美の調子は乱れしと雖も  
しかも我らは今なお4人である

我らは今なお四人である  
地の帳簿に一人の名は消えて  
天の記録に一人の名は増えた  
三度の食事に空席は出来たが  
残る三人はより親しくなった  
彼女は今我らの内に居る  
一人は三人を縛る愛の絆となった

しかし我らはいつまでもかくあるのではない  
我らは後にまた前の如く四人になるのである  
神のラッパが鳴り響くとき  
眠れる者が皆起き上がるとき  
主が再びこの地に下りたもう時  
新しきエルサレムが天より下る時  
我らは再び四人になるのである

天に、主が再びお出でになることに希望を持つ教会になりましょう。

### 3. 愛にあふれた教会です。

愛にあふれた教会とは、どんな教会でしょうか。

使徒ヨハネは、「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげものとしての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです」と教えました（Iヨハネ4:10-11）。私たちは、神様の愛を知ったのですから、互いに愛し合うべきなのです。

さがみのキリスト教会も、まず神様を愛し、そして人々を愛するキリストの愛にあふれた教会になりましょう。

#### 福田裕子さんの例

私たちは、十数年前、アメリカにいる古い友人を訪ねました。その時、その友人が一冊の分厚いノートを持ってきました。それは、600番ほどの聖歌をローマ字で書いたものでした。その友人は、軍人として数年日本に滞在しましたが、日本語はほとんどできませんでした。ですから、教会で賛美するときも歌えませんでした。それを知った福田裕子さんというまだ17歳ほどの姉妹が、聖歌を全部ローマ字に直してこの友人にあげたのです。彼女は、心臓病を患っており、高校もいけないで、家で療養していました。彼女はこの友人のためだけでなく、ほかにも数人のアメリカ人のためにローマ字の聖歌を作りました。18歳で天に召されましたが、私の会った友人は、それを宝物のようにずっと持っていて私たちに見せてくれました。私は、病身の彼女が、日本語で歌えないアメリカ人に示した愛ではなかったでしょうか。

さがみのキリスト教会も、人々を批判したり、冷たくするのではなく、愛にあふれた教会になろうではありませんか。

#### 勧め

あなたはどうでしょう。使徒パウロは「いつまでも残るのは信仰と希望と愛、この三つです。その中で一番すぐれているのは愛です」と言いました。あなたはどうでしょう。あなたの信仰生活で、どこが足りませんか。

教会がみこころにかなって成長していくために必要なのは、信仰と希望と愛にあふれた教会になることです。そして、大切なのは、この三つのバランスです。信仰だけに強いが、愛が足りない教会ではなく、愛は豊かだが、信仰が足りない教会でもなく、信仰と希望と愛のバランスの取れた教会として成長することを心から期待します。













